

## 「ハイタッチがくれたもの」(中2)の授業について

### 1 はじめに

明日、表題の内容で授業をするということで相談を受けました。資料の前半と後半では登場人物の気持ちが変わっている。その変化に注目させたいという授業者の意向に沿って、発問を考え合いました。

相談が終わってから、「国語の物語文では主人公の心情を読み取るが、道徳の読み物資料では主人公の心情を読み取るのではなく、資料から道徳的価値について考えることである。」ということを出しましたが、時すでに遅しでした。相談者と考えた展開と、資料から道徳的価値を考える展開を紹介します。

### 2 授業展開

- (1) 教材名 ハイタッチがくれたもの / (2) 主題名 私たちでつくる校風  
(3) 内容項目 C-(15) よりよい学校生活、集団生活の充実  
(4) ねらい 集団で協力し合う大切さに気づき、狭い仲間意識を越え、よりよい校風をつくろうとする実践意欲を育てる。

(1)～(4)は指導書より

#### (5) 発問内容

##### <資料からの発問>

発問1 p69 112 「裕司は、なんとなく暗い気持ちになった。」とありますが、具体的にどんなことを思っ  
て暗い気持ちになったのだと思いますか。

→ ペアで意見を交流する。全体で交流する。

発問2 p71 14～ 裕司がもう一度提案すると言ったとき、浩一はなぜ協力すると言ったと思いますか。

→ 道徳ノート「かんがえてみよう」に書く。

→ 班で交流する。その後、全体で交流する。

班では必ず全員が発表する。

##### <資料からの発問 別案>

“資料から道徳的価値について考える”を踏まえて考えました。

発問1 裕司は、なぜ「ハイタッチの日」をつくる案を出したのですか。

→ ペアで意見を交流する。全体で交流する。

発問2 あなたは、学校を明るくする運動や、いじめゼロの取り組みとして「ハイタッチの日」をつくるとい  
う案についてどう思いますか。

→ 道徳ノート「かんがえてみよう」に書く。

→ 班で交流する。その後、全体で交流する。

班では必ず全員が発表する。

##### <生活の振り返りからの発問>

発問3 本校にはAIP精神があります。あなたにとってAIP精神の良さとは何ですか。

→ 道徳ノート「自分に+1」に書く。

→ 班で交流する。その後、全体で交流する。

発問4 AIP精神を後輩に伝えるため、あなたはどんなことをしますか。

→ 道徳ノート「自分に+1」に書く。

→ 班で交流する。その後、全体で交流する。

#### AIP精神とは

相談のあった先生の学校では、生徒会が中心となってAIP精神に基づく活動を20年以上も前から続けています。AIP精神とは、「生徒一人ひとりが校則や規則というよりも、時・場所・場合を意識して、自分たちで考え、自分たちで判断し、自分たちで行動する。」という精神です。

### 3 授業を見せてもらって考えたこと

#### (1) 本時のねらいについて

本時のねらいは、「集団で協力し合う大切さに気づき、狭い仲間意識を越え、よりよい校風をつくろうとする実践意欲を育てる。」である。ここにはねらいが3つある。①集団で協力し合う大切さに気づくこと ②狭い仲間意識を越えること ③よりよい校風をつくろうとする実践意欲を育てること

授業を終えて、結果として、①だけ、②だけ、③だけ達成できたということもあろうし、すべての目標が達成できたということもあろう。しかし、教師が指導案を作るとき、目標が3つもあるというのはどうなのであろうか。やはり焦点化すべきである。“(2)主題名 私たちでつくる校風”からすれば、本時のねらいは、「よりよい校風をつくろうとする実践意欲を育てる。」が適切ではないだろうか。そうであるならば、資料から道徳的価値を考えるを踏まえて、発問2の『あなたは、学校を明るくする運動や、いじめゼロの取り組みとして「ハイタッチの日」をつくるという案についてどう思いますか。』は、的を射た発問ではないだろうか。

#### (2) 実践意欲を育てること

道徳の授業は、実践すること、実践できるようにすることが目的ではない。「～することが大切だ」「～しようと思う」というところまでである。気持ちや思いが湧き上がるようにすることが大切である。また、教師が考える道徳的価値を教え込むことも間違いであろう。資料や生活の振り返りから道徳的価値について深く考えることを通して、気持ちや思いが湧き上がってくるようにしたいものだ。

生徒の発言を捕まえて、教師は「そのように実践しなさいよ」などと言うべきではない。生徒に、実行しないことは書いてはいけないとか、実行するのは大変だから書かないとかいう思いを持たせてはならない。

#### (3) 友だちと考えが言い合えるから道徳の授業は楽しい

表題のタイトルと同じ内容で隣のクラスが授業をしていた。わいわいガヤガヤと楽しそうようすが伝わってきた。どんな授業展開であったかは分からない。道徳の授業は楽しいと思えるようにしたい。別に、わいわいガヤガヤしなくても楽しいと思える授業であれば良い。授業を観せていただく機会が多いが、自分の考えを書いてから交流するということが多いように思う。今回の道徳の授業もそうであった。いろいろな意見が聞けるのは楽しい。友だちの意見に対して、あーだ、こーだと言ひ合えればもっと楽しいだろう。そのためには、自分の考えを書いてから交流するのではなく、意見を交流してから友だちの意見も踏まえて自分の意見を書くというのはどうだろうか。意見を交流し合うことで、友だちの考えや自分の考えが変わっていくことは楽しいものだ。しかし、一度書いてしまうと、意見は変わりにくいのではないだろうか。

### 4 おわりに

ぜひ実践していただき、成果と課題を共有したいものです。

特に、「意見を交流してから、友だちの意見も踏まえて、自分の意見を書く。」という実践をしていただき、成果と課題を共有したいものです。